

151

2018. 11. 18

長崎郵趣



惜別
感無量

1
昭30
錢無目打エラー



惜別 感無量 30銭無目打エラー第1角

伊藤 純英

JAPEX2018(11.17 JPSオークション)

大学3年の時だったと思うが、当時日本郵趣連合の資金調達のために、東のタカハシと西の金井（カメラ）オークションで隔年交互に基金オークションというのが開催されていた。その年の基金オークションにドクター市田が出品してくれたのが、このエラー切手。欲しいならみんなと競って買いなさいというスタンス。東京駅夜行の大垣行き。大垣で西明石行きに乗り換えて大阪着。競売は、下を向いて手を上げ続けた。どのくらい経っただろうかわからないくらい、長く感じられた。落札と同時に拍手。そして、その場に居合わせたN氏の運命を狂わせることになった。のちにN氏は菊切手で世界一のコレクションを作ることになるが、そのきっかけはこの時の体験。私と出会わなかったら、切手の専門蒐集もしていなかったはず。その意味で私が人生の運命を変えさせた人物の第1号になった。さて、私は大学卒業後本社が東京にある出版社の大阪支社に赴任。後を追うようにN氏も同じ業界へ。毎日のように私のアパート（マンション）に来ては、各シリーズの切手についての個人教授。お金の作り方からコレクションの組み立て方まで毎日が合宿状態。当時、カメラアスタンプオークションの手伝いをボランティア（たまに手当も出た）でしており、準社員扱いで毎年の忘年会に数回出たのは私とN氏ぐらいなもの。その後私は出版社に5年勤務。その後、県立高校の教員に採用され私が帰郷した後は、N氏も同じように故郷の県庁に採用されて、めでたく公務員生活。天性の世渡り上手のせいかな、現在某県の幹部に出世している。私と出会ってなかったら、新卒で県庁に入っていたはずなので、回り道をさせたことになる。切手を集める道に入ったことが幸せだったのか、それとも新卒で県庁マンとして順風満帆な道を歩んだほうがよかったのか。どちらが幸せだったかわか

らない。

さて、このエラー切手は、北海道札幌市内の特定局で1943年に発見。1946年に切手の大会が北海道で開催された時に大川如水が持ち主の壇上勲（だんじょうつとむ）氏を口説き落として、30枚足らずを切り取って東京に持ち帰った。これは左上のコーナー切手を中心。現在、切手展で目にするのは、この大川如水由来のペアやブロック。その中でも白眉ともいうべき左上のペアは市田左右一博士の所有するところとなった。その後のドクター市田の所有期間は30年前後。私の所有期間は1979年から39年間ということになる。我が人生の半分以上を共に過ごした切手。

最初の所有者壇上氏が最後まで所有していた銘版付10枚ブロック以外は、不思議と、この大川如水由来のものばかりが公開されている。この理由を考えてみるに、大川如水は当時としてはものすごく高く買って、その後分譲。それだけにその後の入手者は大事にした、という話。逆に壇上氏に近い人には、請われるまま相場としては格安で譲ったので、大事にしないまま、北海道で朽ち果ててしまったのではなからうか。

入手した頃、昭和切手の「日本切手名鑑」の企画があり、編者の田辺猛さんに請われてコレクションを半年預けた。50銭切手などページによっては、半数以上が私の切手で構成されたページもあった。その中で、カラーで掲載された思い出の切手でもある。「郵趣」誌でもカラーでの宣伝があった。ここまではいいとして、同じ時期、日本切手専門型録が創刊された際、無断でしかも言い訳できるようにトリミングして掲載された。以後、最新版まで断りもなく使用。一言言えば、トリミングしないで掲載できたものを。その後入手したこのエラー切手の10枚ブロックの場合には、白い表紙の「日専」に掲載

前に一言あったので、口絵にカラーで掲載された。

この度、全国郵趣大会2018in島原の終了翌日に私の自宅訪問会があり、その際発掘されて東京へ旅だった。約40年間手元にあり、コレクションの目玉となっていただけに、別れは忍びない。ただ私の生存中に行方を見届けることができるのが救いである。入手当時の金利は4パーセント。10年で倍に増えていた時期だけに、現金で定期預金をしとけば、と思うのは野暮な話。

新しく引き継いでくださる方に幸あれと願う。
(FACEBOOK投稿記事より。一部加筆。以下コメントも)

コメント5件

27谷之口 勇さん、狩野 奈々さん、他25人
いいね!

伊藤 純英

来年か再来年、そう遠くない期間にポジション不明の田型が出品されます。残念なことに1枚、表ヘゲ。キズナシは3枚です。今回買えなかった方はそちらを狙ってはいかがでしょうか。

椋山 哲太郎

よくぞ決断されました。敬服します。

伊藤 純英

歴代の日専のトリミング図版の切手。実はこの姿では実在していない切手です。(※右上図)

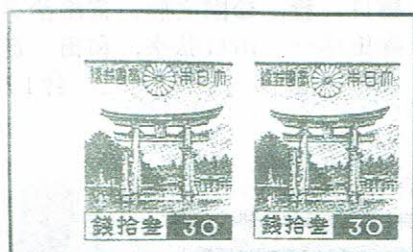
椋山 哲太郎

ん？どこが実物と違うのでしょうか？上耳紙の幅が違う(修正されてしまった)ところでしょうか。

伊藤 純英

上の耳紙をトリミングしてます。

S, 245Fvc・2 S, 248Fva・3 S, 261Fvb・20 S等も同じ。



30Sen 235Eva

昭和

水谷 行秀

その3年後、私も転勤で大阪に。貴殿もN氏も私も20台でした。関西小判・菊・田沢切手例会で毎月お会いしてました。貴殿のアパートとN氏のアパートの両方を訪れたのは私くらいでしょうか。

伊藤 純英

金も切手もそんなに持ってなかったけど、3人で楽しかったですね。

郵趣あれこれ
こぼれ話

皆さんからいただいた
目より郵趣情報をご紹介。
編集部へのご投稿は
emailでも可能です。
jpp@yushu.or.jpへ

◆続々登場！マンホール図案の風景印

YW21号でも紹介されていた「マンホールと同図案の風景印」。嬉しいことに今年8月13日から使用開始の小諸相生局(長野県)もマンホール図案の風景印でした。マッチングする切手は？と探してみましたが、「懐古園(三の門)の切手はありません。「浅間山」が描かれたものがふるさと切手や国立公園切手などに4種ほど見られました。また、文化人切手の「島崎藤村」は、懐古園に所縁もある人物で適正切手でしょう。さらに、9月10日から使用開始の山口局(佐賀県)もマンホール図案の風景印です。いずれも、マンホールカードも既に配布中です。

なお、ほかにも風景印の一部デザインとマンホールがほぼ一致する例を、鹿北局(熊本県山鹿市)に見つけました。こちらはまだマンホールカードはありませんので、山鹿市にカード作成を期待したいものです。(伊東弘章・長崎県)



▲左から、小諸相生局(長野県/YW31)と山口局(佐賀県/YW35)の風景印(下)と、同図案のマンホールカード(上)。



▲鹿北局(熊本県)の風景印と、一部が同図案の山鹿市のマンホール。